



保護者のみなさまへ
子育て応援リーフレット

子供の

学力向上

を目指して

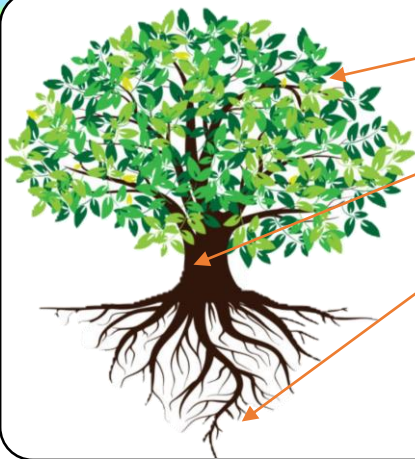
「確かな学力」育成プロジェクト

常陸大宮市教育委員会では、子供たちの学力向上を目指して、様々な取組をしています。子供たち一人一人の学力を伸ばし、夢や目標に向かう基礎を作ることが大切としています。

その取組の一つとして、「確かな学力」育成プロジェクトを推進しています。本プロジェクトは市内すべての学級を、「支え合い、学び合い、教育力のある、質の高い集団」に育成することを基盤に、様々な検査をとおして、子供たちの実態を把握し、授業づくりや授業改善、家庭学習の充実を図ることをねらいとしています。これらのねらいの実現には、家庭と学校の協力が大切であると考え、リーフレットにまとめました。ぜひ、ご一読願います。

常陸大宮市教育委員会

学力の樹



葉：知識・技能

(NRT・CRT)
標準学力検査

幹：思考力・判断力・表現力等

(NINO)
認知能力検査

根：関心・意欲・態度

(QU)
学級満足度調査

志水宏吉著「学力を育てる」
(岩波新書2005年)より

学力の樹とは、学力の中身を、より正確には、学力の構造を樹であらわしたものです。

まず「葉っぱ」。「葉っぱ学力」とは、知識・技能です。様々な教科の学習の中で学び取るたくさんの事柄です。技能とは、リコーダーのふき方、前転の仕方、計算の仕方など、習得する技術・能力です。葉っぱが光合成をして新しい養分を創り出すように、人間も新たな知識や技能を獲得することで、何か価値のあるものを生み出すことができます。そして、葉っぱの量が多いほど光合成の量が増すように、人間も多くの知識や技能を持てば持つほど新しいものを生み出す可能性が高まります。

一方、見えないのが「根っこ」、「見えない学力」は「根っこ学力」です。根っこの役割は2つあります。1つは樹全体を支える役割。もう1つは、樹の成長に不可欠な水や養分を吸収する役割です。「根っこ」とは、子供一人一人の「個性や持ち味」「くせや性分」「夢や希望」といったもの。目には見えないが、一番大切な「気持ち」です。「根っこ学力」とは、関心・意欲・態度のことです。

最後に、「葉っぱ」と「根っこ」をつなぐのが「幹」です。葉っぱ学力でできた養分は、幹を通じて根っこに降りていき、根っこで吸収した水や養分は重力に逆らいながら、幹を通じて一枚一枚葉っぱまでいきわたります。この「幹学力」が「思考力・判断力・表現力等」です。

子供たちは日々いろいろなことを学び取っていきます(葉っぱ学力)。一方、彼らの胸のうちには、さまざまに秘められたものがあります(根っこ学力)。日々の生活のなかで、さまざまな人との関わりのなかで、両者が行ったり来たりします。笑ったり、泣いたり、成功したり、失敗したり、頼られたり、無視されたり、達成感に浸ったり、…。そうした経験を積み重ねるなかで、子供たちは、自分たちのものの見方や考え方、自分の気持ちの表し方やかかわり方を形成していきます(幹学力)。

本市では「葉っぱ学力」を標準学力検査で、「根っこ学力」を学級満足度調査で、「幹学力」を認知能力検査で見取り、子供一人一人に寄り添った教育を実践していきます。

教育のまち、常陸大宮市を目指して！！ 学力向上に向け「3つの視点」を大切にしています

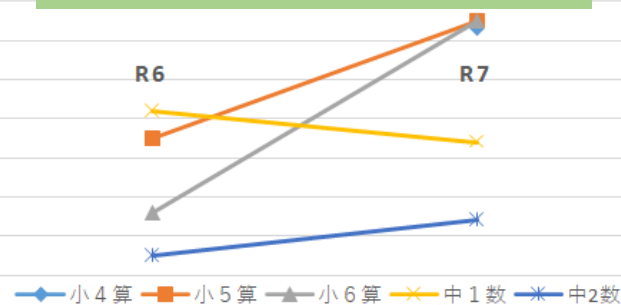
学力の向上

に成果が出ています！

常陸大宮市教育委員会は、令和4年度より、「確かな学力」育成プロジェクトを進めています。市立小・中学校では、3つの視点を大切にしながら、各学校の特色に合わせた取組をしています。各学校の取組をご理解いただくとともに、家庭と学校がつながり、子供の学力向上を目指しましょう。

家庭と学校が協力し合って、子供を育てていきましょう。

実力テスト正答率（算数・数学）



子供たちも先生たちもがんばっています！



令和7年度は、プロジェクト開始後4年目になり、**【学級生活満足群】**の割合が一番大きくなりました！また、4年間全国平均を高い水準で上回っています。
⇒各小中学校のクラスで親和性が高まり、学び合う集団ができてきています。
また、学力診断テスト結果からも、学力が向上してきていることが分かります！一歩一歩成果が出ています！

<学級満足度アンケート結果>

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
64.2%	67.6%	65.6%	69.7%

【Hyper QUテスト（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）より】

授業を変える

- 標準学力検査（NRT、CRT）などにより、子供一人一人の学び力を分析し、個性に合わせた学びや協働的な学びの実現に努めます。
- 学習課題の解決に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指します。

視点2
主体的・対話的で深い学びへの授業の転換

学び方を教える 家庭とつながる

- 「学習の手引き」などを活用して、どのように学んだらよいか示していきます。
- タブレットなどを活用して、家庭学習の充実に努めます。

視点3
「学び方」を育てる

学級をつくる

- 学級満足度調査（HyperQU）などにより、一人一人の子供について、やる気、満足度をつかみ、親和性の高い集団づくりに努めます。

視点1
心の居場所をつくる

小中でつながる教職員がつながる

- 小中学校の先生が、子供たちの様子について話し合ったり、授業づくりについて研修したりする場をつくっていきます。

学びの場をつくる

- 子供同士、子供と教師の関係づくりを大切に、学び合い高め合う場づくりに努めます。

